

## チーバくんパートナー意見交換会

日 時：令和4年8月31日

開催形態：オンライン

出席者：チーバくんパートナー11名、千葉県国際交流センター職員2名、千葉県職員2名

### 意見交換会次第

#### 1. 課長挨拶

#### 2. 自己紹介

#### 3. 意見交換会

- (1) 生活していく中での困りごと
- (2) 日本人住民との交流
- (3) ぼうさいあんしんノート

#### 4. その他

### 意見交換会 意見概要

#### 1 生活していく中での困りごと

(国際課から、多文化共生推進プランに挙げられている課題として、生活に関する情報が得られないことがあり、パートナーから何か困ったことの経験を聞きたいことを説明)

#### <ごみの分別>

- ・アパートのオーナーが説明してくれた。英語の文章や、写真を付けてくれてわかりやすかった。
- ・粗大ごみについて、回収をしてもらうためには自分で分別をして、電話で説明しないとイケなくて困った。

#### <役所での手続き>

- ・5年前は外国語での説明がほとんどなかったが、今は時々説明がある。ただまだ少ないと思う。
- ・マイナンバーカードについて、期限が外国人の在留期限と同じとなっている。マイナンバー

カード更新の際、在留カードの更新がされていないとマイナンバーカードが更新できないが、在留カードの更新の手続きには時間がかかり、マイナンバーカードの更新期限に間に合わない。

- ・子どもが学校に通うため、配偶者とは別の住所にしたが、そのために様々な手続きや書類の準備が必要となった。
- ・行政の日本語がわかりにくい。役所の職員がやさしい日本語を学んでほしい。
- ・引っ越しの際に前の役所から新しい役所への手続きや、郵便の転送手続きをしなくてはならず、とても困った。
- ・アルバイトをしており、その所得税、市民税の申告の際、二月に別の市に引っ越したが、税務署なのか、どちらの市で手続きを行うのか、それぞれの窓口で別々なことを言われて、とても困った。

#### <医療>

- ・日本語が難しい。
- ・先輩や日本人の友人に同行を頼まないと、対応が難しい。

#### <その他の生活場面>

- ・銀行の手続きは何の目的で開設するのかと聞かれ、目的がないと開設できないと言われた。手続きがいろいろあって大変だったのと、待ち時間が長くて大変だった。
- ・夜に自転車のライトの電池が切れており、ライトがついておらず、止められて注意されたことがあった。自分の国では夜にライトをつけていなくても違反にはならないので、ルールを知らなかった。
- ・同じ国の出身で日本に住んでいる人（先輩）と連絡ができて、教えてもらえる関係が大事だと思う。
- ・保証人制度がいろいろなところで必要となっている。大学の入学でも保証人が必要。また保証人は外国人ではだめで、日本人じゃないといけないということがあり、留学生では日本人の保証人を見つけるのが難しい。
- ・Wi-Fi 環境が不十分。
- ・現金しか使えないところが多い。
- ・日本に来たときは日本語がわからなかったが、最初は通訳や役所、病院の人が優しく手伝ってくれて、困ることはあまりなかった。

- ・学校や行政から配付されるイベントのチラシに少しでも英語が書いてあれば外国人も歓迎されているとわかっていいと思う。親が日本語ができずにこういったイベントがあることを知らない、子どもの成長に差が出てくる。
- ・学校の教員には、小学校や中学校の途中で日本に来た外国人の子どもは、自国であれば勉強はできていた。日本の学校では、勉強ができないのではなく、日本語がわからないためについていけないことをわかってもらえれば違ってくると思う。
- ・災害の時に安全な場所を探すのは簡単ではない。電信柱に避難所への矢印が張っており、それでわかるが、他に逃げるところがあるかがわからない。
- ・アパートの部屋に、外国人は受け入れないというオーナーが多い。

## 2 日本人住民との交流

(国際課から別添スライドを基に、多文化共生推進プランで外国人と日本人との共生をしていくことについて簡単に説明。日本人とどんなところで交流しているかをテーマに意見を聞いた)

- ・外国人だから・日本人だからという意識ではなく、同じ地域に住んでいる者として、様々な活動に参加している。PTA や、美化委員、スポーツ推進委員。
- ・町内会とか自治体の制度でもいろいろなものがあるが、そういったところで外国人の参加も歓迎しているという姿勢になればと思っている。
- ・大学に勤めており、外国人の職員は自身一人だけであり、日本人と働いているが、特に外国人だからという意識もせずに一員として働いている。
- ・PTA の役員をしているが、日本語にわかりにくいところがあって、そこは少し不安を感じる。
- ・町の移住定住促進員をしている。移住者は外国人と立場が一緒で、移住者も元々の住民と交流することが難しい。
- ・せっかく日本に来た外国人の方には、少しでも日本語でコミュニケーションが取れば楽しく生活できるので、ぜひ頑張ってもらいたい。
- ・子どもはすぐに近所の人たちとあいさつを通して仲良くなる、そういう力がある。
- ・子どものいるチーバくんパートナーの人たちは、子どものために学校や住んでいるところで日本人住民と交流することとなるが、それは本当に住民たちと仲良くなるために大事だと思う。
- ・地域のスポーツクラブで、保護者たちがボランティアでいろいろなことをやる中で、みんなと一緒に試合に出たりする中で助け合い、仲間になっていくきっかけとなった。

### 3 ぼうさいあんしんノート

(外国人県民向けの防災ガイドブック「ぼうさいあんしんノート」の改訂に向けて、国際課から順番に説明し、1枚ごとに意見をもらった)

#### ○1 ページ目

- ・三密をつくらないと書いてあるが、三密がなにかわからない人がいると思う。わかりやすく書く、または説明を加えた方がいい。
- ・「わたしの避難所」と書いてあるが、そもそも避難所がどこにあるか知らない人が多いと思う。
- ・日本語がそもそもわからない外国人がいるので、その人たちにどう伝えていくかということを考えないといけない。

#### ○2 ページ目

- ・やって「おく」、おいて「おく」という表現が外国人にはわかりづらいと思う。
- ・字だけだとちょっとわかりづらいと思っており、写真を追加すればやさしくなると思う。
- ・ひらがなが書いてあると辞書で調べられるので良いと思う。調べてもイメージが出てこないようなものは、小さい絵を追加するか、他のページでどんなものなのかを書くといいと思う。
- ・少し項目を分類した方がいいと思う。食べ物とか、服、生活用品など。

#### ○3 ページ目

- ・「家が壊れないためにすること」は、大事なところではないと思う。
- ・防災訓練などわかりづらいところは、写真や二次元コードとかを使って、すぐにネットにつなげて調べられるといいと思う。
- ・最初に「家がどれだけ地震に強いかわかる」と書いてあるが、どうやって調べればいいのかわからない。
- ・「地震のとき電気を止める機械をつける」もどんな機械なのかわからない。
- ・やさしい日本語を使うと、逆にわかりづらいところがあるのではないかと思う。例えば「家具を動かさないようにする」というのはすごく難しいと思う。これは「倒れないようにする」がいいのではない。

- ・「電気を止める」は、「電気を消す」にしてはどうか。

#### ○4 ページ目以降

（会議時間が長くなったため意見交換は省略。意見があれば後日メールなどで寄せてもらいたい旨を事務局から伝えた。）

#### 4 その他

- ・多文化共生出前講座について紹介（千葉県国際交流センター）

（千葉県国際交流センターより、多文化共生出前講座について、動画及び資料により説明。講師となることを希望する場合は千葉県国際交流センターまで連絡されたいことを伝達。）